東医大誌　**79**(1)：1-2, 2021

巻　頭　言

医学と科学の「新日常」

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター研究所
副所長　再生医療センター長

梅　澤　明　弘

Akihiro UMEZAWA

コロナウィルスにより、学問にたずさわってきた人たちにとっても大きな変革があった。学問の世界における「新日常」を探る日々である。

まず、困惑したことは、緊急事態宣言の発令とともに、私が勤務する研究施設は事実上の閉鎖となったことである。大学生は実習・研究ができなくなり、自宅待機となり、一部の授業しか聴講できなくなった。不要不急の活動はすべて中止となり、実習・研究活動はその不要不急となった。研究施設に隣接する病院施設は制限はあるものの、コロナ対策を含めて医療が行われているのと対照的な対応となった。社会科学であれば自宅での研究活動ができる部分もあると推測する。医学及び生物学の分野ではどうしても研究室での活動が不可欠であり、今後の考え方の整理をしていかなくてはいけない。少なくとも、研究は不要不急の範疇と判断されると覚悟が必要である。40 年に渡って研究室にいることに誇りを感じて過ごしている者にとっての、「新日常」での心持ちはどんなものであるか。

次に、感染症に対する学問の復活があり、そこに最新の研究成果が利用されていることが印象深い。ワクチンもさまざまであり、RNA、DNA、蛋白質とある。一番驚いたのは、RNA ワクチンで、不安定な RNA を用いてワクチンがヒトで有効性を示される可能性があるのは驚きである。DNA ワクチンも用意されようとしている。ワクチンと言えば、生ワクチン、不活化ワクチン、組み換え蛋白質を想定するものの開発スピードを考えると RNA 及び DNA ワクチンは興味深い。私の勉強不足を恥じるべきであろう。

また、研究活動を行う上で、研究室での膝を突き合わせての雑談や居酒屋での会話はかかせないと思っている。それが、今では研究室内でのミーティングはウェブで行われ、居酒屋でのミーティングはない。さらに、ウェブ学会に参加したときは驚いた。予想に反し、結構わかりやすく良かったというものである。スライドが見やすいこと、声が聞こえやすいこと、そして会場間の移動がなくてすむこと、聞きたい内容は何度も聞くことができる。ウェブ学会はいいじゃないか。それでは、YouTube で発表をアップすれば良いではないかと、研究者も YouTuber になればよいではないかという意見もでてこよう。ウェブ学会というプラットフォームは、YouTube というプラットフォームに比べるとまだまだ優れているというのが私の実感である。

私にとっての研究生活の「新日常」はどうなっていくのかは予想できない。いろいろな意味でサバイバルするしかない。不要不急とされる研究活動は、人類ならびに社会にとって必要であることを証明して見せたい。

略　歴

梅澤　明弘（うめざわ　あきひろ）　UMEZAWA Akihiro

1960 年　4 月 29 日生
1985 年　慶應義塾大学医学部卒業
1985 年　慶應義塾大学大学院医学研究科（病理学専攻）入学
1989 年　慶應義塾大学大学院医学研究科修了（学位取得）
1989 年　慶應義塾大学医学部助手（医学部病理学）
1991 年　米国カリフォルニア大学サンディエゴ校内科学教室研究員
1992 年　米国ラ・ホヤ癌研究所研究員
1994 年　慶應義塾大学医学部助手（病理学）
1999 年　慶應義塾大学医学部助教授（病理学）
2002 年　国立成育医療センター研究所 生殖医療研究部長
2015 年　国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 副所長/再生医療センター長 / 細胞医療研究部長

学位・資格
1985 年　医籍登録
1998 年　死体解剖資格取得
1990 年　医学博士（慶應義塾大学）
1990 年　日本病理学会認定病理医
2015 年　再生医療認定医

受賞歴
1993 年　Henry Christian Memorial Award
1997 年　北里賞、慶應義塾医学部（三四会）